

様式3

公立大学法人静岡文化芸術大学

平成 29 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成 30 年 8 月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 公立大学法人静岡文化芸術大学の平成29事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、平成29事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の平成29年度の業務実績に関しては、全体として「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡文化芸術大学が、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の育成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組むよう計画を策定し、遂行している。

第2期中期目標期間の2年目である平成29年度は、昨年度に実施した当評価委員会の評価において指摘した事項の改善に努めながら、教育方法の充実、学生支援の強化など、第2期中期計画及び年度計画の達成に向け、教職員を挙げて取り組み、着実に成果を上げた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第3項目別評価」のとおり、「**大学の教育研究等の質の向上に関する目標**」、「**法人の経営に関する目標**」、「**自己点検・評価及び情報の提供に関する目標**」及び「**その他業務運営に関する重要目標**」の全ての項目について、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と認められ、これらの状況と平成29年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 平成29年度の重点的な取組

ア 地域社会との連携について

浜松商工会議所と連携した竜宮小僧プロジェクトや久留女木の棚田耕作放棄地再生プロジェクト等を通じ、大学と地域のつながりを強化した。さらに、フェアトレードの理念に共感し、その活動が地域で一層効果的に展開されることを目指して、**アジア初のフェアトレード大学の認定**を取得した。(No. 77)

イ 多様な学生に対する支援について

- ・ 受入れ留学生のサポート体制整備のため、**留学生の学修、生活支援を行う新たなSA^{※1}制度を検討**し、SA用マニュアル作成など制度の構築を進め、平成30年度から実施することを決定した。(No. 18、46)
- ・ 障害のある学生を支援するため、**障害学生の長期履修制度を新設**し、

※1 SA(スチューデント・アシスタント): 大学院生が学部学生等に対する助言や実験、演習等の教育補助業務を行うTA(ティーチング・アシスタント)とは区別して、学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせること。

円滑な運営に向けて、制度を紹介する教職員用と学生用のパンフレットを作成した。さらに、修学サポート室の定期検討会で障害により配慮を要する学生への支援方法を検討し、障害学生修学支援委員会において、具体的な配慮すべき事項の共有を図った。(No. 47、48)

ウ 防災体制の強化について

熊本地震における大学の対応状況を調査し、**教職員向け災害対応マニュアル原案の作成、学内SD^{※2}研修会**の開催等を通じ、防災体制の強化に取り組んだ。また、**原子力災害発生時**における避難所としての施設の使用について、**浜松市と覚書を締結**し、地域社会と一体となった防災の取組を推進した。(No. 129、133)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 修士課程全体では、平成 28 年度から 2 年連続して**定員を満たしていない**。特に文化政策研究科では、定員未充足の状態が続いているため、より一層の定員確保努力を図る必要がある。なお、デザイン研究科においては、平成 30 年度学生数が定員を大幅に超過しているため、適切な定員管理を行う必要がある。
- ・ **LMS^{※3} (学習管理システム)、障害学生の長期履修制度や大学独自の海外インターンシップ**など、平成 29 年度に検討・準備を行い、平成 30 年度から運用が開始されたものについては、実績を踏まえ、**内容の充実を図っていく**ことを期待する。

[参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

※2 SD(スタッフ・ディベロップメント):教員に加え事務職員や技術職員など、教職員全員を対象とした、管理運営や教育研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。

※3 LMS(ラーニング・マネジメント・システム):学生へ講義資料や参考書の提示、講義への質問やコメント集約とそのフィードバックによる双方向授業を実現するシステム。

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の91項目中14項目が「計画を上回って実施している」、77項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 受入れ留学生のサポート体制整備のため、**留学生の学修、生活支援を行う新たなSA制度を検討**し、SA用マニュアル作成など制度の構築を進め、平成30年度から実施することを決定した。(No. 18、46)
- ・ 時間外の学修時間の確保や双方向授業等を実現するため、**LMS（学習管理システム）**について、他大学の調査、学内での試行などを経て、**導入することを決定**した。(No. 20)
- ・ 障害のある学生を支援するため、**障害学生の長期履修制度を新設**し、円滑な運営に向けて、制度を紹介する教職員用と学生用のパンフレットを作成した。さらに、修学サポート室の定期検討会で障害により配慮を要する学生への支援方法を検討し、**障害学生修学支援委員会において、具体的な配慮すべき事項の共有**を図った。(No. 47、48)
- ・ フェアトレードの理念に共感し、その活動が地域で一層効果的に展開されることを目指して、**アジア初のフェアトレード大学の認定**を取得した。(No. 77)
- ・ 研究者総覧の配布や大学**Webサイト**における**研究者情報の発信**を行い、共同研究2件、受託研究3件、受託事業18件を実施した。「心臓マッサージを実習できる**教育教材**」を**地域企業、他大学と共同で開発し、市販化**した。(No. 78)
- ・ トルコ・イズミル経済大学の教員や学生に加え、地元企業や団体とも連携し、ボドルム市における海洋観光の提案について、**国際デザインワークショップを開催**した。(No. 94)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ リカレント教育※⁴の充実が求められている中、受講者数や運営体制の面から社会人専門講座※⁵が取りやめとなったが、大学として**社会人等多様な学生を受け入れるための新たな取組**を実施されたい。(No. 8)
- ・ 時間外の学修促進や双方向授業の実現を可能とする**LMS**（学習管理システム）の導入を決定したことについて評価する。今後、活用にあたり課題となっている Wi-Fi 環境の整備や教員への支援・学生の活用促進に取り組み、より**効果的にシステムが活用**されることを期待する。(No. 20、35)
- ・ 平成 31 年 4 月に向け、文明観光学コース及び匠領域設置の準備が着実に進められている。今後、**地域に求められる人材の輩出を念頭に置いた教育が展開**されることを期待する。(No. 16、43、44)
- ・ 障害のある学生への支援として、長期履修制度を創設したことについて、評価する。修学サポート支援員や教職員研修を通じ、**障害のある学生への配慮・支援体制をより一層充実**されることを期待する。(No. 47、48)
- ・ 県外出身の学生や、職種や業界の選択肢が多い大都市圏の企業を目指す学生が増えていることなどにより、**県内就職率が低下**している。県内企業・団体等様々な機関との連携を密にし、学生の県内企業等への関心を高め、**県内就職に向けた取組**を強化していくことを期待する。(No. 60)
- ・ 科学研究費補助金について、講演会や個別相談会などを開催し、外部資金獲得のための支援体制の充実に取り組んでいる。科研費の採択件数、科研費を獲得し研究をしている教員の割合ともに、年々増加しており、取組が成果に結びついている。**更なる外部資金獲得に向け、支援体制の充実**を図られたい。(No. 70、71、113-1)
- ・ アジア初のフェアトレード大学として認定されたことについて、高く評価する。今後、**産業界や自治体と連携して取り組み、大学の特色として展開**することを期待する。(No. 77)

※⁴ リカレント教育：社会に出てからも学校または教育・訓練機関に回帰することが可能な教育システム・体系のこと。

※⁵ 社会人専門講座：アートマネジメントや芸術文化政策等文化施設の運営に携わる人材育成を行う SUAC エグゼクティブ・プログラムにおけるメインコース。120 時間の体系的学修により、学校教育法に定められた修了証が取得できる。

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	42	5	37	0	0
2 学生支援	19	2	17	0	0
3 研究	11	0	11	0	0
4 地域貢献	11	5	6	0	0
5 国際交流	8	2	6	0	0
合 計	91	14 (15.4%)	77 (84.6%)	0	0

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の 24 項目すべてが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1) のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 業務や人材の配置等を考慮し、県・市・民間から職員の派遣を受けるとともに、プロパー職員、期間契約職員、非常勤職員等、**多様な雇用形態で採用**した。(No. 102)
- ・ **監査担当参事を中心に**、平成 29 年度内部監査計画を作成し、**業務監査**「施設・設備の整備・活用等」、**会計監査**「支出取引及び固定資産」を実施した。(No. 111)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営	18	0	18	0	0
2 財務内容改善	6	0	6	0	0
合 計	24	0	24 (100.0%)	0	0

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の6項目すべてが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- 平成28年度の**認証評価による指摘事項の対応策**を平成29年度計画に位置づけ、無線LAN環境の整備や防犯カメラの更新に向けた設置箇所や老朽化状況等の精査など改善に取り組んだ。(No.119)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 自己点検・評価	1	0	1	0	0
2 情報公開・広報充実	5	0	5	0	0
合計	6	0	6 (100.0%)	0	0

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の16項目中1項目が「計画を上回って実施している」、15項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- 熊本地震における大学の対応状況を調査し、**教職員向け災害対応マニュアル原案の作成、学内SD研修会の開催**等を通じ、防災体制の強化に取り組んだ。また、**原子力災害発生時における避難所***としての施設の使用について、**浜松市と覚書を締結**し、地域社会と一体となった防災の取組を推進した。(No. 129、133)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分に 実施できていない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設・設備	3	0	3	0	0
2 安全管理・防 災対策	9	1	8	0	0
3 人権尊重・社 会的責任	4	0	4	0	0
合計	16	1 (6.2%)	15 (93.8%)	0	0

※6 原子力災害発生時における避難所：浜岡地域原子力災害広域避難計画に基づき、原子力災害対策区域にかかる自治体から避難する住民を浜松市が受け入れる際の避難所。